

「七月のキノコ(4)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

キノコは発生する場所・・・つまり菌糸が栄養を摂取する場所に、それぞれの「好み」がある。「針葉樹林に発生」とか「朽ち木に生える」といった、好みの範囲が広い種類もあるが、中にはコアラのように、「これしか栄養にしません」というキノコもある。



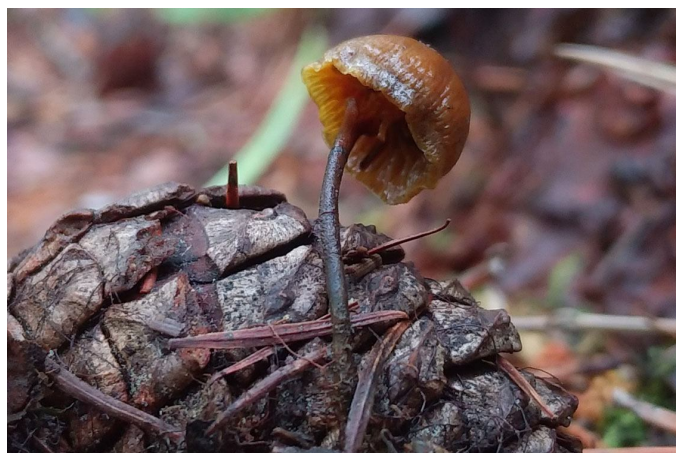
たとえばこれは「ヒナノヒガサ」というかわいらしいキノコ。コケの上にはしか発生しない。コケの根から直接栄養を摂取するのだ。こうした種類を「菌根菌」といい、マツタケなどもその仲間だ。



このキノコも、地面近くからの構図で撮影すると、「森の妖精」になる。苔庭を管理する人にとっては「害菌」だが、被写体としてはすばらしいキノコだ。



こちらは「松ぼっくり専門」のキノコ。その名も「マツカサキノコモドキ」キノコに「キノコ」の名がつくものは珍しい。



アカマツの少し古い球果を好む。球果全体に菌糸をまん延させているのだろう。キノコにしては珍しく、茎も傘も革質で強靱なので、10日以上このままの姿を保つ。慎重に持ち帰って、成長を観察すると良い。



極端に長寿なキノコもある。これは「コフキササルノコシカケ」という木質のキノコで、広葉樹の切り株に発生する。何年もかけて成長するので、よく見ると「年輪」のようなものが見える。残念ながら、このキノコに猿が座っているのを、私はまだ見たことがない。